

入館案内

●開館時間

9:30～17:30 (入館は17:00まで)

●休館日

月曜日

※祝日または振替休日の場合はその翌日

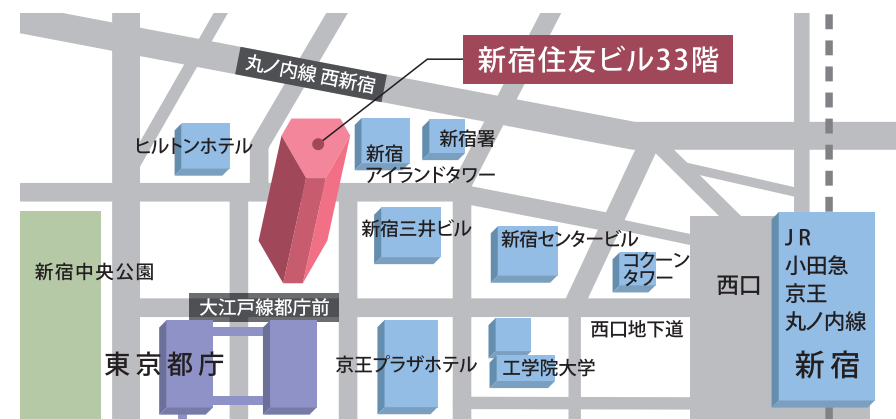
※夏休み期間は除く

年末年始(12月28日～1月4日)

新宿住友ビル全館休館日

●所在地

〒163-0233 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル33階



- 都営大江戸線 「都庁前」駅より徒歩 約3分
- 東京メトロ丸ノ内線 「西新宿」駅より徒歩 約7分
- JR線、小田急線、京王線 「新宿」駅西口より徒歩 約10分

●お問い合わせ

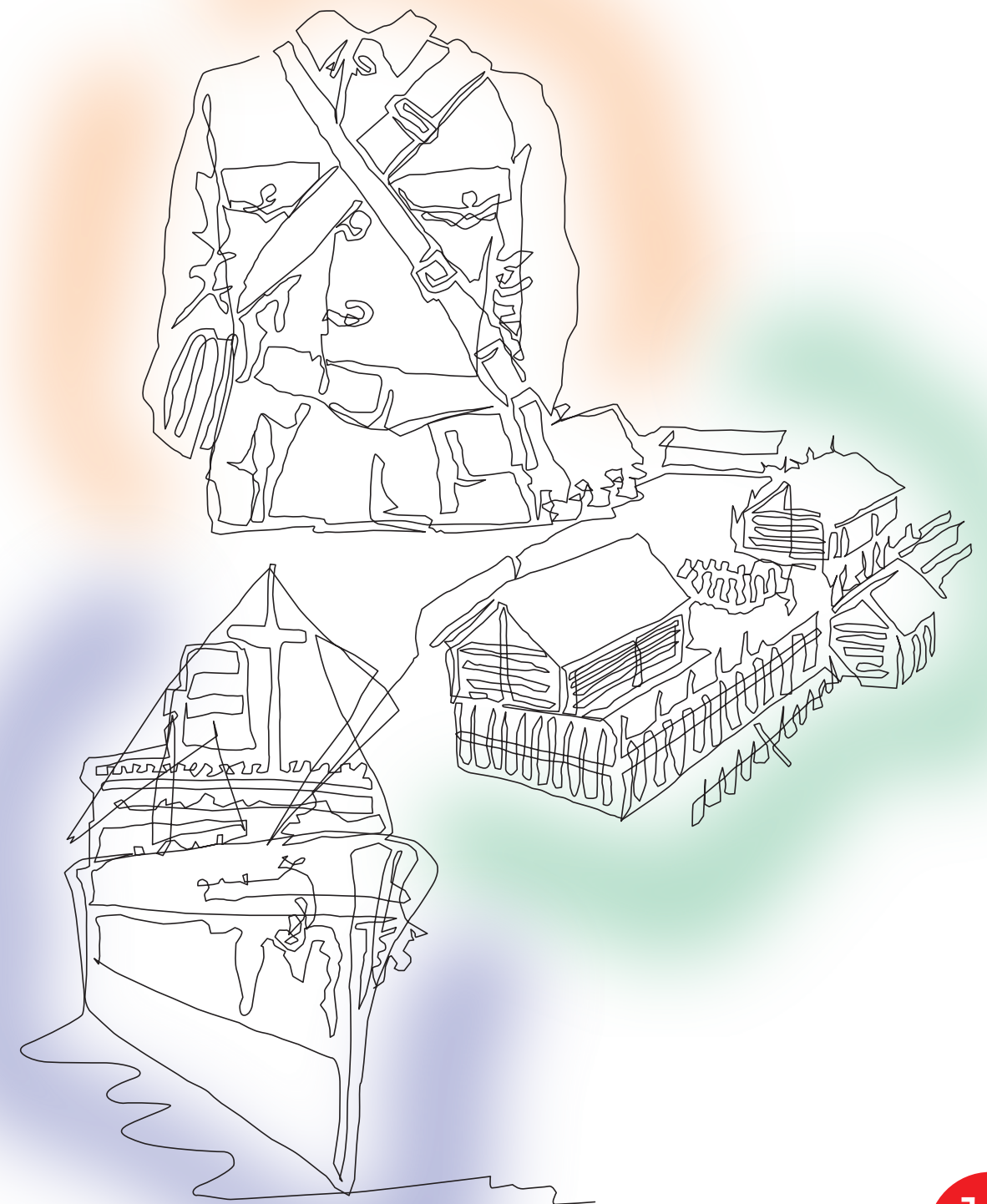
Tel.03-5323-8709 Fax.03-5323-8714

<https://www.heiwakinen.go.jp>

平和祈念展示資料館(総務省委託)

平和祈念展示資料館

Memorial Museum for Soldiers,
Detainees in Siberia,
and Postwar Repatriates



入館
無料

平和祈念展示資料館では

さきの大戦における、兵士、戦後強制抑留者および海外からの引揚げ者の労苦（以下、「関係者の労苦」）について、国民のより一層の理解を深め、親から子へ、子から孫へ、そして次の世代へ語り継いでいくことを目的として、関係者の労苦を物語る様々な実物資料、グラフィック、映像、ジオラマなどを戦争体験のない世代にもわかりやすく展示しています。また、資料を有効活用し、効果的な方法で幅広く労苦を語り継ぐため、全国で展示会などの館外活動を展開しています。

兵 士

さきの大戦において、国のために家族を残し、危険な戦地に向かい、命をかけて戦務に従事し、大変な労苦を体験された方々です。その中には、軍歴期間が短いために年金や恩給を受給できない方々（恩給欠格者）もいます。



戦後強制抑留者

戦争が終結したにもかかわらずシベリアを始めとする旧ソ連やモンゴルの酷寒の地において、乏しい食糧と劣悪な生活環境の中で過酷な強制労働に従事させられた方々です。

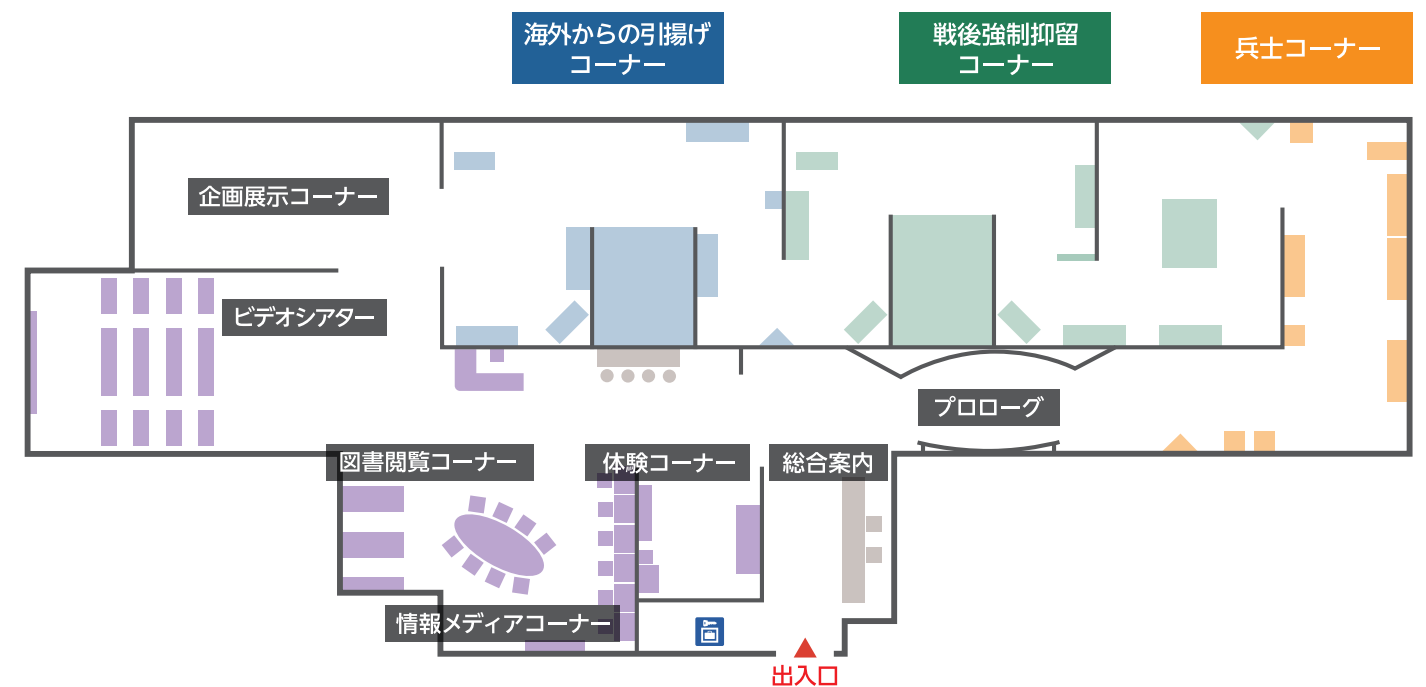


海外からの引揚げ者

敗戦によって外地での生活のよりどころを失い、身に危険が迫る過酷な状況の中をくぐり抜けて祖国に戻ってこられた方々です。



平和祈念展示資料館 館内案内



プロローグ



体験者の証言と写真で構成されたイメージ空間を経て、「兵士」「戦後強制抑留」「海外からの引揚げ」の3つの労苦と、関連する主な出来事を紹介しています。

臨時召集令状(赤紙)や、軍服、日誌、郵便物など
兵士の労苦を伝える資料を展示しています。



徴兵制と兵士

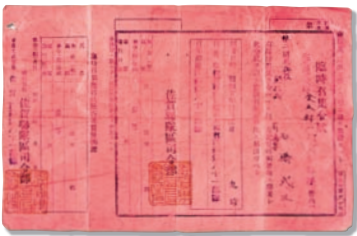
昭和20(1945)年までの日本には、満20歳*に達した男性が、徴兵検査を受け、合格者には兵士となることを義務付けた、徴兵制がありました。

この制度のもと、国民の義務として多くの一般の人々が軍隊に召集されました。

※昭和19年以降は満19歳。



「入営」
臨時召集令状(赤紙)が届き、入営する兵士の情景を体験者の証言をもとに再現しました。



臨時召集令状(赤紙)
戦争で多くの兵士が必要になった際に、徴兵検査で合格した男性を集めるための命令書です。その色から「赤紙」と呼ばれました。

兵士と家族の思い

さきの大戦では、多くの一般の人々が兵士となり、家族や親戚、友人を故郷に残して、戦地に向かいました。出征する兵士は、言づてや遺言状、形見の品などを残し、家族や友人は、無事に帰ってきてほしいという思いを込めた千人針やお守り、寄せ書きの入った日の丸などを贈りました。



千人針
出征する兵士に、女性が贈ったお守りです。兵士の武運と無事を祈り、木綿の布に千人の女性たちが赤い糸で一針ずつ玉留を縫って作りました。



弾除け祈願のチョッキ
朝鮮にいた女学生が弾除けや武運長久の願いを込め、前線の兵士に贈ったチョッキです。

厳しい軍隊生活

軍隊に入って1年目の初年兵は、規律や知識、各種の技術、戦闘や行軍に耐えられる体力を身につけなければなりません。そのため、軍隊生活の中で、厳しい訓練や教育を受けました。やがて、戦争の末期になると、戦局の悪化により、前線での兵士の不足が深刻化したため、装備や資材、人員などを割く余裕がなくなり、十分な訓練や教育が行われないうちに、多くの初年兵が戦場に送り出されました。



軍隊手牒
陸軍の兵士の身分証明書と履歴書を兼ねた手帳です。氏名、生年月日、本籍のほか、所属部隊、兵科、階級、服のサイズ、入営からの軍歴などが書き込まれました。



陸軍通信隊の電鍵
通信兵がモールス信号を打つための機器です。昭和16年製造。この電鍵は、陸軍の通信隊に配属となった初年兵の訓練で使用されました。

戦場の拡大と戦局の悪化

昭和6(1931)年の満州事変を経て、昭和12年に日中戦争が始まり、戦闘が泥沼化していくなか、昭和16年に日本は太平洋戦争に突入しました。日本側は、1千万人以上の人々を、各地の戦場に送り込みました。戦争が長引くにつれ、戦局は不利な状況になり、戦場では兵器や食糧などの物資の不足が目立つようになりました。過酷な状況の下、玉砕や特攻、自決、飢え、伝染病などにより、数多くの兵士が命を落としました。



戦陣鏡
弾除けのお守りです。出征する兵士は、左の胸ポケットに入れて肌身離さず持ち歩きました。



認識票
部隊番号や氏名、個人の番号が刻まれた金属の板です。戦死した人の身元が確認できるように、各人に支給されました。兵士はこれを常に身につけていました。



「慰問袋を受け取って」小柳 次一氏 撮影



慰問袋
戦地の兵士を励ますために、国民が日用品や雑誌、手紙、お守り、菓子などを詰めて送った袋です。



メント酒入れ
メントール*とアルコールを主原料として作られた薬品です。戦地では、消毒薬や気絶した兵士の意識を回復させるための薬として用いられました。
※ハッカ油に含まれる成分。

ラーゲリ(収容所)の模型や、強制労働で使った道具、
手作りの食器、体験者が描いた絵画などを展示しています。



終戦と抑留の始まり

昭和20(1945)年8月8日、ソ連は対日参戦を表明し、翌9日以降、満州や朝鮮北部などへ侵攻を始めました。国境付近での激しい戦闘の後、ソ連軍と日本軍との間で停戦が合意され、各地で武装解除が行われました。日本の軍人・軍属や一部の民間人は、千人単位の大隊に編成された後、ソ連兵から「ダモイ(帰国)」と言われ、貨物列車や船、徒歩などで移動を命じられました。しかし、着いた先は日本ではなく、北方のシベリアやモンゴルなどの地域でした。抑留された人は、約57万5千人に及びます。



「ラーゲリ(収容所)模型」

ハバロフスク地方フルムリ地区第2支部のマプリンスク村にあった第217分所を、当時そこに抑留されていた方の証言をもとに再現しました。

強制労働

抑留者は、様々な労働を課せられました。労働の内容は、森林伐採、鉄道建設、道路工事、荷役、建築作業、農作業、鉱山採掘など、地域や収容所により異なりました。それぞれの労働には、一日ごとのノルマ(割り当て)が課せられ、達成できなかった場合は、元々少ない食事の量をさらに減らされるといった厳しい処罰を受けました。



ロシア製の斧とのかぎり

抑留者が森林伐採などに使用していたものと同じ形の斧とのかぎりです。

収容所生活

「食事の分配」

体験者の証言と絵画作品を参考に、抑留者たちの食事シーンを再現しました。
収容所での一日分の食事の量は、黒パン350g、雑穀で作った薄^{かゆ}いお粥(カーシャ)やスープが少量というわずかなものでした。黒パンは、まとめて支給されたため、公平に切り分けるのが大変で、天秤^{てんびん}や物差しではかって切ったといいます。



袖なしの防寒外套

シベリアの冬はマイナス30～40度になります。この外套の持ち主は、飢えに耐えかね、現地の労働者が持っていたパンと外套の袖を交換しました。



死亡を伝える書簡・写真・死亡告知書

昭和22年6月に書かれた、厳しい抑留生活の中で衰弱死した男性の最期の様子を伝える書簡です。同じ収容所に抑留された男性が、死亡した男性の妻のもとへ送りました。これが根拠となって、3年後に県から死亡告知書が届きました。



白樺の手製食器類

イルクーツク州のスルジャンカに抑留中、白樺の木を削って作った食器です。故郷での食事を思いながら作りました。



手製の麻雀牌

抑留中、木片を削って作った麻雀牌です。草や赤チンなどで着色しました。



手製の歌謡曲集

抑留された従軍看護婦が、収容所内の診療所で働いていた時に、日本人の衛生兵からもらった歌謡曲集です。

引揚げ時に発行された書類や、引揚げ船の模型、
子どもたちの様子を撮影した写真などを展示しています。



海外に渡った日本人

昭和4(1929)年の世界恐慌以降、日本は長い不況から抜け出せず、また、人口増大も問題化していきました。昭和6年の満州事変以降、農村の余剰人口の移住先として満州が注目を浴び、昭和11年以降、村落を分割した開拓団や、青少年を集めた満蒙開拓青少年義勇軍などが満州に入植しました。昭和20年当時、開拓団を含め、約155万人の日本人が満州に居住していました。

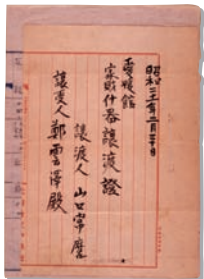
ソ連参戦による悲劇

昭和20(1945)年8月9日、突然のソ連軍の満州侵攻で、国境付近の開拓団は大混乱に陥りました。直ちに避難を開始しましたが、青壮年男子のほとんどが関東軍に召集されていたため、女性、老人、子どもだけの避難行は悲惨を極めました。避難先の都市部では、ソ連兵による暴行、略奪が日常化し、日本人は飢えと恐怖、不安の日々を送りました。ソ連軍の急進撃により逃げ場を失ったうえに、反日感情による現地農民の襲撃もあり、避難民は道路や集落を避けて原野をさまようことになりました。



収容日誌

引揚げの途中に滞在したカトリック教会の収容所で書いた、昭和21年2月1日から11月30日までの日誌です。



愛媛館家財什器譲渡証

愛媛館は朝鮮の元山にあった旅館です。敗戦後、愛媛館がソ連軍の宿舎となり、日本人の経営者が、このままでは帰国できないと考えたため、旅館に長年尽くしてくれた朝鮮人の部下に対し、建物や家財道具など、旅館の全てを無償で譲渡した時の書類です。

日本への引揚げ

旧満州からの引揚げは昭和21(1946)年4月に開始されました。引揚げ業務は23年8月に終了しましたが、生きるために残留した女性や中国人に引き取られた孤児などが、現地に残されました。旧満州を始めとする海外からの引揚者は約320万人に及びます。



おむつで作った 子ども用ワンピース

日本に引き揚げる際に、4歳の娘に着せようと、母親が亡くなった赤ん坊の布おむつで作ったワンピースです。



引揚げ時の胸章

引き揚げる時、少年が胸に付けていた名札です。氏名や行き先などが書かれています。



手製のリュックサック

昭和21年7月、引揚げを待つ間に、ぼろ布を集めて作ったリュックサックです。



船内食器

昭和21年3月に、台湾の高雄港で、引揚げ船に乗り込む時に支給されたアルミ製の食器です。



引揚げ証明書

海外から引き揚げたことを証明する書類です。各地の引揚げ港に置かれた地方引揚げ援護局で発行されました。引揚者はこの証明書により、郷里までの鉄道の無料乗車券や、生活に必要な物資の配給を受けることができました。



帰還者必携

文部省が発行した小冊子です。「新しい出発へ」という副題で、海外からの引揚者や復員した兵士のために、戦後新たに成立した法律や制度を解説しています。



企画展示コーナー

様々なテーマで企画展を開催しています。



ビデオシアター

週替わりで約30～40分のビデオを上映しています。



図書閲覧コーナー

約2千冊の開架図書は、自由に閲覧することができます。
体験者の手記をまとめた『平和の礎』や、展示資料に関連した図書があります。



情報メディアコーナー

体験者の貴重な証言を聞いたり、映像を見たりできます。チャレンジクイズにも挑戦してみてください。



体験コーナー ～みて、きいて、さわって～

見学した展示を振り返りながら、みる、きく、さわるなどの体験ができます。



語り部お話し会

体験者の貴重なお話を聞くことができる「語り部お話し会」を毎月第3日曜日に開催しています。



展示解説

展示をより理解していただくために、解説員による展示解説を行っています。



音声ガイド

代表的な資料の解説を聞くことができる音声ガイド機器を無料で貸し出しています。



館内イベント

語り部お話し会、読み語り、ワークショップ、アニメの上映など様々なプログラムを用意しています。



地方巡回展

当資料館が所蔵する代表的な実物資料や写真などを活用した展示会を全国で開催しています。

軍部の台頭	中国大陸への進出
1926	昭和元年
	12月25日 大正から昭和へと改元する
1928	昭和3年
	2月 日本初の男子普通選挙が行われる
	6月 満州某重大事件（関東軍 [※] が、満州の張作霖を爆殺する） ※大正8(1919)年～昭和20(1945)年まで満州にいた日本陸軍の部隊
1930	昭和5年
	昭和恐慌（前年の世界恐慌が波及して、深刻な不況となる）
1931	昭和6年
	9月18日 柳条湖事件（満州事変の始まり。関東軍が、満州各地を占領する）
1932	昭和7年
	2月 リットン調査団の来日（国際連盟が、満州事変の調査を始める）
	3月 「満州国」の建国宣言
	5月15日 五一五事件（海軍青年将校らによって、犬養毅首相が殺害される。政党内閣が終わる）
	9月 日満議定書の調印（日本が、「満州国」を承認する）
	10月 リットン調査団が、日本・中国にリットン報告書を提出する
	満州へ第一次移民団が出発する（満蒙開拓団の草分けとなる）
1933	昭和8年
	2月 国際連盟が、リットン報告書に基づいて、「満州国」の不承認を採択する
	3月 日本が、国際連盟の脱退を通告する（10月にドイツも国連の脱退を通告する）
1936	昭和11年
	2月26日 ニ・二六事件（陸軍青年将校らによって、斎藤実内大臣や高橋是清大蔵大臣などが殺害される）
	8月 広田弘毅内閣が、20年間で100万戸(500万人)の満州移民の入植を決定する

日中戦争の泥沼化	第二次世界大戦の勃発
1937	昭和12年
	7月 7日 盧溝橋事件（日中戦争の始まり）
	この年 全国各地で、兵士におくる千人針や慰問袋が盛んになる
1938	昭和13年
	1月 「国民政府を対手とせず」の第一次近衛声明（日本が、中国に和平交渉の打ち切りを通告する）
	4月 国家総動員法の公布（政府が、議会の承認なしに、戦争に物資や労働力を総動員できるようになる）
1939	昭和14年
	5月 ノモンハン事件（日本軍とソ連軍が、満州とモンゴル国境のノモンハン付近で戦闘する。9月に停戦）
	9月 1日にドイツ軍が、ポーランドに侵攻する。これに対して、3日にイギリス・フランスが、ドイツに宣戦を布告する（第二次世界大戦の始まり）
1940	昭和15年
	9月 日本・ドイツ・イタリアが、日独伊三国軍事同盟を結ぶ
	10 月 全政党が解散して、大政翼賛会が発足する（国民を政治的に統制する役割を果たす）

アジア・太平洋における戦争	戦線の拡大
1941	昭和16年
	4月 日本とソ連 [※] が、相互の領土を不可侵とする日ソ中立条約を結ぶ
	※ ソビエト社会主義共和国連邦。1922年～1991年まで存在した、ロシア共和国をはじめとする15の国からなる初の社会主義国家
	1991年の崩壊後はロシア連邦が主な権利を引き継いだ
	6月 ドイツ軍が、ソ連に侵攻する（独ソ戦の始まり）
	7月～8月 7月28日に日本軍が、南部仏印 [※] 進駐を始める。これに対して、8月1日にアメリカが、日本への石油輸出を禁止する
	※現在のベトナム南部
	12月 8日 日本軍が、マレー半島のイギリス軍、ハワイ真珠湾のアメリカ軍を攻撃する(太平洋戦争の始まり)
	12月11日 ドイツ・イタリアが、アメリカに宣戦を布告する
1942	昭和17年
	1月～5月 日本軍が、アジア・太平洋地域のシンガポール・インドネシア・ビルマ・フィリピンなどを占領する

戦局の悪化	そして終戦
1942	昭和17年
	6月 ミッドウェー海戦（戦局の転機）
	8月 アメリカ軍が、ガダルカナル島に上陸する
1943	昭和18年
	2月 日本軍が、ガダルカナル島から撤退する。ミッドウェー海戦とあわせて、日本軍は、制海権と制空権を失い、補給線を断たれる
	9月 イタリアが、連合国に無条件降伏する
	10月 学徒出陣（兵力不足を補うため、20歳以上の文科系男子学生は、徴兵延期を取り消されて出征する）
	12月 アメリカ・イギリス・中国の首脳が、カイロ宣言を発表する(台湾・満州を中国に返して、朝鮮を独立させるとともに、日本の無条件降伏まで戦うことを決定する)
1944	昭和19年
	7月 サイパン島が陥落して、東条英機内閣が総辞職する
	11月 サイパン島が基地となり、アメリカ軍のB29 [※] による日本本土への空襲が本格化する
	※アメリカ軍が開発した爆弾搭載量9トンの重爆撃機
1945	昭和20年
	2月 アメリカ・イギリス・ソ連の首脳が、ヤルタ会談を開く（ソ連が、南樺太 [※] ・千島列島の領有や満州の権益を見返りとして、ドイツの降伏後に、対日参戦する秘密協定を結ぶ）
	3月10日 東京大空襲（アメリカ軍のB29が、下町一帯を無差別爆撃して、東京の約4割が焼ける）
	3月26日 アメリカ軍が、3月26日に慶良間諸島へ、4月1日に沖縄本島へ上陸する
	4月 ソ連が、日ソ中立条約を延長しないことを日本に通告する。条約は、翌年4月まで有効
	5月 ドイツが、連合国に無条件降伏する
	6月23日 沖縄で、アメリカ軍に対する、日本軍の組織的な戦闘が終わる
	7月26日 アメリカ・イギリス・中国の首脳が、占領方針と日本降伏を勧告するポツダム宣言を発表する
	8月 6日 アメリカ軍のB29が、広島に原子爆弾を投下する
	8月 8日 ソ連が、日本に宣戦布告する（ソ連軍は、9日に満州・朝鮮北部へ、11日に南樺太へ侵攻する）
	8月 9日 アメリカ軍のB29が、長崎に原子爆弾を投下する
	8月14日 日本政府が、ポツダム宣言の受諾を最終決定する
	8月15日 玉音放送（昭和天皇により、戦争の終結が国民に発表される）
	8月23日 ソ連のスターリンが、「日本軍俘虜50万人」を労働力として利用するよう決定し、24日に命令する

連合国による日本占領	復員・抑留・引揚げの始まり
1945	昭和20年
	9月 2日 日本政府が、ポツダム宣言に基づき降伏文書に調印する（第二次世界大戦の終わり。アメリカを中心とする連合国の日本占領の始まり）
	朝鮮南部からの引揚第一船「興安丸」が、釜山 [※] より仙崎へ入港する
	9月25日 復員第一船「高砂丸」が、中部太平洋のメレヨン島より別府へ入港する
	10月 国際連合の発足
	11月 厚生省引揚援護課及び地方引揚援護局 [※] の新設
	※浦賀・舞鶴・呉・下関・博多・佐世保・鹿児島に新設された。その他、函館・名古屋・田辺・宇品・大竹・仙崎などでも引揚者を受け入れた
	11月～12月 陸軍省と海軍省の廃止。第一復員省と第二復員省が設置される
1946	昭和21年
	3月 海外にいる日本人の引揚げは、GHQ [※] の「引揚に関する基本指令」に基づいて、日本政府が行うことになる
	※連合国軍最高司令官総司令部。アメリカのマッカーサーが、連合国軍最高司令官を務める
	4月 旧満州からの引揚第一船が、博多へ入港する。10月までに、旧満州にいた民間人の約100万人が帰国する
	5月～6月 日本政府の要請により、アメリカが、抑留者の送還についてソ連と交渉を始める
	12月 ソ連本土からの引揚第一船「大久丸」と「恵山丸」が、ナホトカより舞鶴へ入港する
	「ソ連地区引揚に関する米ソ協定」の調印により、抑留者の帰国が本格化する
	朝鮮北部からの引揚第一船「永録丸」が、興南より佐世保へ入港する
1947	昭和22年
	5月 3日 日本国憲法の施行
1948	昭和23年
	5月 厚生省引揚援護庁の新設
	8月 大韓民国の成立
	9月 朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の成立
1949	昭和24年
	10月 中華人民共和国の成立。中国からの集団引揚げが中断される
1950	昭和25年
	6月 朝鮮戦争の始まり
1952	昭和27年
	4月28日 サンフランシスコ講和条約の発効により、連合国の日本占領が終わり、日本は主権を回復する
1953	昭和28年
	3月 北京協定に基づいて、中国からの集団引揚げが再開される
	7月 朝鮮戦争の休戦協定が結ばれる
1956	昭和31年
	10月 日ソ共同宣言の調印（日本とソ連が、国交を回復する）
	12月 ソ連本土からの引揚最終船「興安丸」が、ナホトカより舞鶴へ入港する
1958	昭和33年
	11月 最後の地方引揚援護局(舞鶴)が閉局される



『戦史叢書』(朝雲新聞社)昭和19年の地図を参考に作成